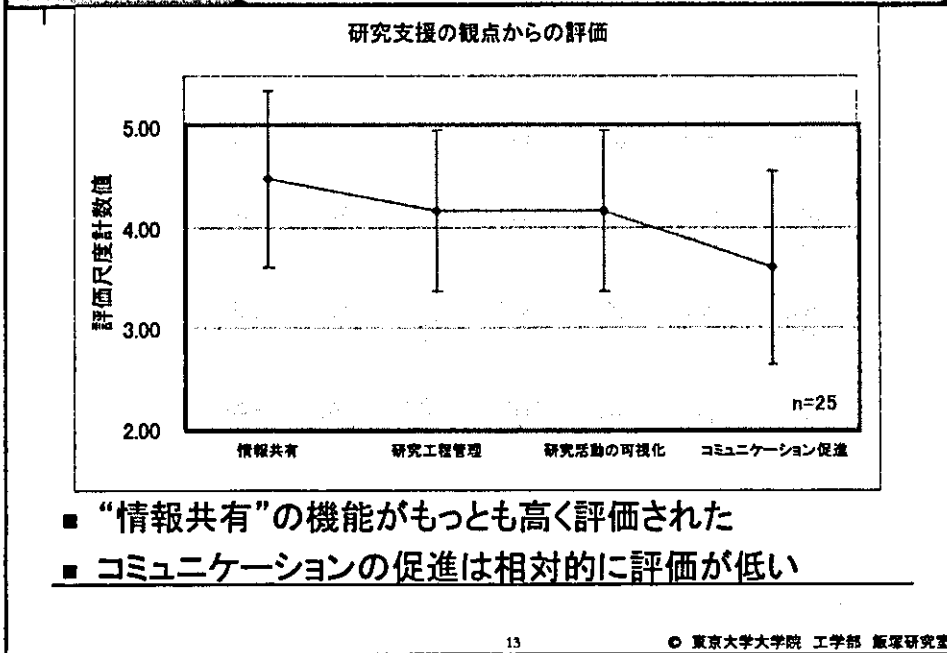
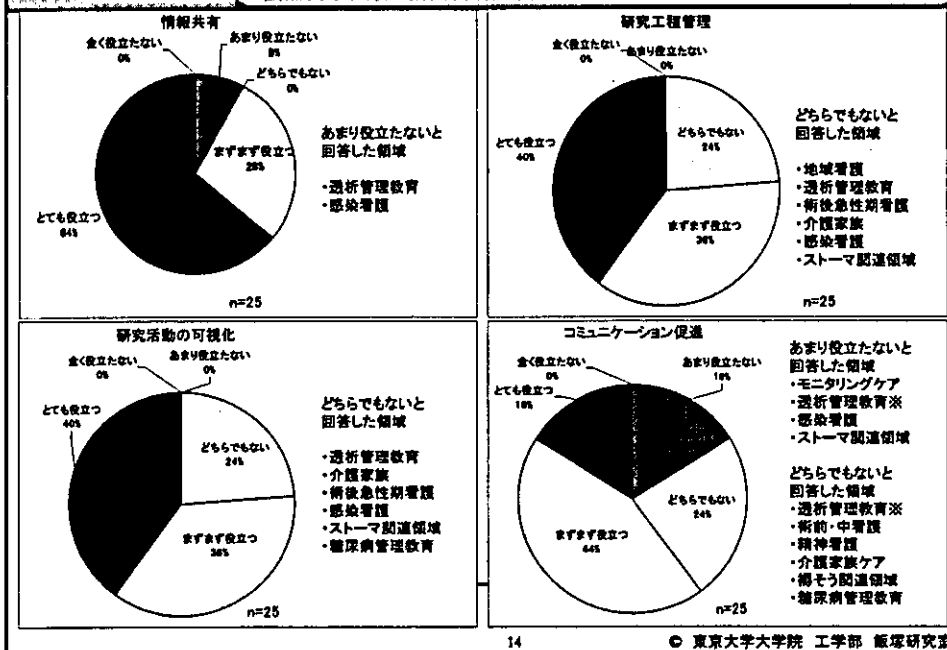


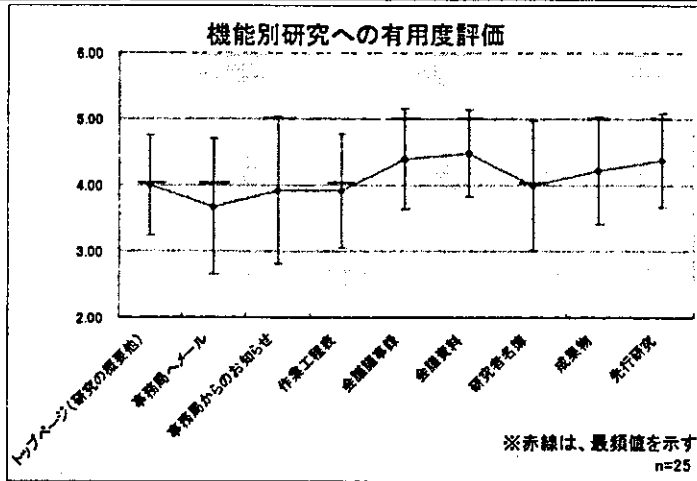
## アンケート集計結果(研究支援の観点から評価)



## アンケート集計結果(研究の視点-回答割合)



## アンケート集計結果(機能別評価)



- 会議資料・会議議事録ダウンロードの機能が高く評価されている
- 事務局へのメール、研究者名簿の評価は低い

## アンケート集計結果(自由記述分析:トップページ)

トップページに関する自由意見	
キーワード	本文を抽象化
イメージ	トップページのピクチャーに関する肯定的な評価
イメージ	トップページのピクチャーに関する肯定的な評価
イメージ	トップページ(全体)に対する肯定的な評価
イメージ	トップページ(全体)に対する肯定的な評価
イメージ	トップページのデザインに対する肯定的な評価
イメージ	トップページの印象に対する評価
イメージ	トップページのピクチャーに対する肯定的な評価
閲覧性	トップページの閲覧性に関する肯定的な評価
閲覧性	トップページの閲覧性に関する改善の提案
閲覧性	トップページの閲覧性に関する肯定的な評価
閲覧性	トップページの閲覧性に関する改善の提案
閲覧性	トップページの閲覧性に関する肯定的な評価
閲覧性	トップページの閲覧性に関する改善の提案
情報の質	トップページの情報提供内容に対する肯定的な評価
情報の質	専門用語に解説を加えることが望ましいと提案
情報の量	トップページの情報量に関する肯定的な評価:情報量が過剰である
情報の量	トップページの情報量に関する肯定的な評価:情報量は過剰ではない
情報倫理	情報倫理に関する疑問点
情報倫理	情報倫理に関する疑問点
文章表現	より一般化するため、平易な表現に改善すべきだと判断
文章表現	上記の提案に関する具体例の提示
文章表現	トップページの文章表現に関する改善の提案

自由記載本文を述語を基点に文節に分け、抽象化し、キーワードを付与して分類。

### ※トップページ

#### 抽出キーワード

- イメージ(7)
- 閲覧性(6)
- 情報の質(2)
- 情報の量(2)
- 情報倫理(2)
- 文章表現(3)

合計 22件

## アンケート集計結果(自由記述分析・研究者用ページ)

研究者ページに関する意見	
キーワード	本文を抽象化
HP運営管理	提供資料公開時期に関する改善要求
HP運営管理	提供資料公開時期に関する改善要求
HP運営管理	提供資料公開時期に関する改善要求
イメージ	イメージに対する肯定的な評価
イメージ	イメージに対する肯定的な評価
イメージ	デザインに対する肯定的な評価
イメージ	デザインに対する肯定的な評価
閲覧性	閲覧性に関する否定的な評価
閲覧性	閲覧に関する機能の肯定的な評価
閲覧性	閲覧に関する機能の肯定的な評価
機能改善	閲覧・資料提供に関する機能の改善案
機能改善	提供資料のインデックスに関する改善案
機能改善	提供資料のインデックスに関する改善案
機能改善	提供資料のインデックスに関する改善案
機能改善	提供資料のインデックスに関する改善案
機能全般	機能の肯定的な評価
情報検索	情報へのアクセシビリティに関する否定的な評価
情報提供	情報提供に対する肯定的な評価
情報提供	情報提供に対する肯定的な評価
情報提供	情報提供に対する肯定的な評価
情報提供	情報提供に対する肯定的な評価
情報提供	資料提供に関する機能の肯定的な評価

※研究者用ページ

- 抽出キーワード
  - HP運営管理(3)
  - イメージ(4)
  - 閲覧性(3)
  - 機能改善(5)
  - 機能全般(1)
  - 情報検索(1)
  - 情報提供(5)

合計19件

⇒運営・情報検索に関する改善の提案多く見られる。今後の課題としたい。

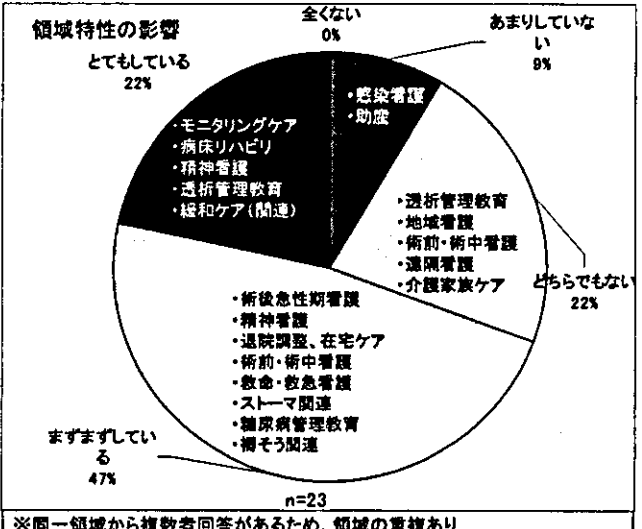
## アンケート集計結果(領域特性の影響)

5.HPの作業工程表をご覧になり、自分の担当領域を中心に他の領域と比較して以下にご回答ください。

1) 領域別のケアアルゴリズムの開発工程には様々な異なったパターンが見られます。ご自分の担当領域の工程に、当該領域・ケアアルゴリズムの持つ特性(ガイドラインの有無など)がどの程度影響しているか以下の尺度を用いてご回答ください。

尺度：

1. とてもしている
2. まずまずしている
3. どちらでもない
4. あまりしていない
5. 全くない

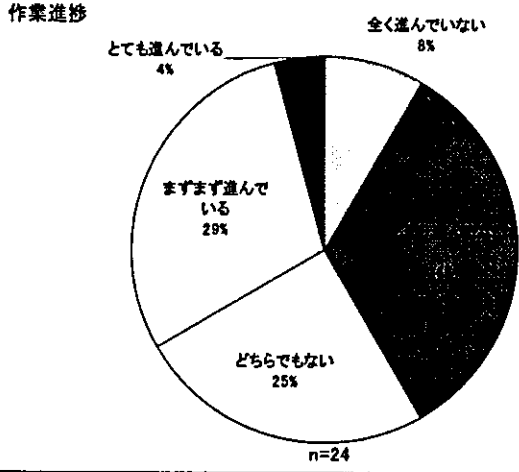


■「とてもしている」「まずまずしている」を合計した69%は、担当領域の特性が作業工程に影響を及ぼすと回答

# アンケート集計結果(担当領域の進捗評価)

2. 1)ご自分の担当領域の作業進捗をどのように評価されますか。以下の尺度でご回答ください。

- 尺度：
1. とても進んでいる
  2. まずまず進んでいる
  3. どちらでもない
  4. あまり進んでない
  5. 全く進んでいない



■ 「あまり進んでいない」「全く進んでいない」を合計した34% ; アルゴリズム化は進んでいないと回答 → 理由の自由記載分析に

# アンケート集計結果(自由記載分析-進捗評価の理由)

進捗評価に関する判断の自由記述	理由
アルゴリズム化	進捗判断に必要な資料の情報が、進捗判断に不十分である。
協力者の関与環境	本業で多忙であり、研究に協力する時間が抽出できない
協力者の関与環境	本業で多忙であり、研究に協力する時間が抽出できない
協力者の関与環境	協力者間で役割が不明
作業の質	担当領域特性の整理が適切に整理できない
作業の量	担当領域における情報収集を行う必要性があると判断している
作業の質	担当領域はもともと手本となる構造化された資料がないため、アルゴリズム化が困難である
作業の量	時間リソースが不足している
作業の質	担当領域の広さによりアルゴリズムの構築化が、作業量を増加させている。
主観的進捗評価	研究者にとっての現時点の目標は達成されていない
主観的進捗評価	研究者にとっての現時点の目標は達成されていない
主観的進捗評価	研究者にとっての現時点の目標は達成されていない
主観的進捗評価	研究者にとっての現時点の目標は達成されていない
主観的進捗評価	研究者にとっての現時点の目標は達成されている
主観的進捗評価	研究者にとっての目標はアルゴリズムの構築作業であり、それが初年度で完了している
主観的進捗評価	研究者は、研究に十分な関与が、担当領域で完了している
主観的進捗評価	現時点での研究の成果物に対する研究者自身の評価は不十分である
主観的進捗評価	コミュニケーションが、研究者にとって現時点の目標である
主観的進捗評価	成果を出すという、研究者の現時点での目標は達成していない
主観的進捗評価	担当領域の手本となる構造化された資料の必要性が不十分である
主観的進捗評価	知識の抽出が、研究者にとって現時点の目標である
相対的進捗評価	研究者の現時点での目標とは一致していない
相対的進捗評価	相対的に担当領域の進捗は良いと判断する
相対的進捗評価	進捗判断のための基準が不明確
相対的進捗評価	進捗判断のための基準が不明確
相対的進捗評価	相対的に担当領域の進捗は良いと判断する
相対的進捗評価	相対的に担当領域の進捗は良くないと判断する
提案	今回のアルゴリズムは暫定的なものとし、今後改善が出来るシステムにすべ
提案	本月中に問題を提示していく予定
当該研究特性	アルゴリズム化に伴う負荷の増加は研究者自身で行うことが困難
当該研究特性	アルゴリズム化の良否は判断を研究者自身で行うことが困難である
当該研究特性	担当領域の全体像を描くことが、研究者にとっての現時点での目標であり、それに到達できていない
作業の質	機能的リソースが利用可能
作業の量	研究者にとっての現時点の目標は達成されている
作業の質	人的・時間・予算リソースが不足している
作業の量	人的リソース利用が容易
作業の質	複数領域も、複数の担当研究で構築する。
作業の量	各領域のアルゴリズム構築で、大きな研究と見える
作業の質	研究の作業は細かい
作業の量	研究の作業量が年間以上に多い
作業の質	作業量が増えることが進捗を促進させる。
作業の量	増加がわかる。

## ※進捗評価の理由

- 抽出キーワード
  - 協力者の関与環境 (2)
  - 作業の質 (8)
  - 作業の量 (7)
  - 主観的進捗評価 (12)
  - 相対的進捗評価 (5)
  - 提案 (2)
  - 当該研究特性 (3)
- 合計 39件

## アンケート集計分析(自由記載分析続き)

- 進捗評価の理由自由記載からの考察
- 作業の量
  - 「仕事の総量が予想以上に過密」
  - ⇒ 1つのケアに集約された知識・技術情報量が膨大
- 作業の質
  - 「スペシャリストが同施設にいるため意見を聞きやすい」
  - 「当該領域について、さらに精密な文献検討及び臨床実践者とのすり合せの作業が必要」
  - ⇒ 臨床・研究の両立場から緻密な開発作業が必要
- 当該研究特性
  - 「アルゴリズム表記苦慮しており」
  - 「手術室の特性つまり看護の内容が適切に表現できず、検討を重ねている」
  - ⇒ 看護・ケアのアルゴリズム化方法論そのものが研究段階

21

© 東京大学大学院 工学部 飯塚研究室

## まとめの考察(ホームページ活用とその評価)

- 科研用ホームページの設計と評価
  - 研究活動支援に対し、ITを利用した情報共有の有用度は非常に高い。当該ホームページへの会議記録・会議資料の提供機能への有用度の高い認識がそれを裏付けると考える。
  - 同様に、研究工程管理、研究活動の可視化も研究活動の支援するものと期待される。
    - しかし、今回アンケートの回答約20%は、積極的にその有用度を認めていないため、有効に活用できていないと考えられる。自由記載に、工程表に関する記述があり、それらの内容を吟味し対応していく必要がある。
  - コミュニケーションの促進は相対的に低い評価を受けた。
    - 当該研究では、現在アルゴリズム化の方法論確立の段階であることを考慮すると、領域間におけるコミュニケーションの必要度が低いと想定される。今後、研究の進行により、有用度が上がる可能性があると考えられる。

22

© 東京大学大学院 工学部 飯塚研究室

## まとめの考察(ホームページ活用の展開)

### ■ IT活用(研究作業工程一覧による活動の可視化)による効果

- 研究作業工程表の一覧作成により担当領域間の作業工程の特色が可視化された。
- それらを手がかりとして、看護の持つ特性・当該研究の持つ特性について考察・検討を行うことができた。  
→研究活動・看護ケアの一側面を可視化により捉えやすくなったものと考えられる  
⇒ITは、思考支援ツールとして有効であると考え

23

© 東京大学大学院 工学部 飯塚研究室

## 今後の展望と課題

### ■ まず改善すべき点

- トップページ構成の見直し  
: 閲覧性の改善、平易な言葉に置き換えるか検討
- 会議資料・議事録のタイトル  
: 会議日時を表記、資料の内容が分かるインデックス

### ■ 展望

- 当該研究終了後、研究者ホームページも公開の予定  
⇒研究当事者でなくとも研究活動が見て分かるホームページへと構築していく
- パラレルプロジェクト方式の研究支援ツールとして、今後も当該手法を展開していく

24

© 東京大学大学院 工学部 飯塚研究室



上のボタンをクリックするとその効果が表示されます。

平成 15-16 年度厚生労働科学研究費補助金 医療技術評価総合 研究事業

保健・医療・福祉領域の電子カルテに必要な看護用語の標準化と事例整備に関する研究  
(15199631)

このホームページは、上記研究を効率よく推進するために共同研究者用のプラットフォームとして開設しました。  
最終的には、この研究により得られた成果をより一般に公開する目的を旨とさせていただきます。

**ホームページアドレス <http://plaza.umin.ac.jp/npt/>**



**研究のためのプラットフォームホームページ 終**  
-パラレルプロジェクト方式の研究活動を支援するITツール活用-

## 第17章 成果発表一覧

平成15-平成16年度の本研究に関連して、以下の成果報告を行った。

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
市川幾雄、水流聡子、山野 絆	看護職が持つべき社会経済視点(座談会)	ナショナルナーシングレビュー	27(3)別冊	6-13	2004
竹田雄介、沢田秋、水流聡子、菅間真美	記録における看護行為・用語の標準化-電子カルテに精神科の特徴を反映させるため	精神看護	Vol.31 No.6	35-40	2004
水流聡子、中西睦子、川村佐和子、石垣恭子、井上真奈美、村上睦子、岡美智代、勝野とわ子、小島恭子、真田弘美、成田伸、川口孝泰、河口てる子、菅間真美、丸光恵、江口睦子、佐藤エキ子、佐藤紀子、山本あい子、村嶋幸代、竹内登美子、嶋	電子カルテのための看護実践用語整備に向けて-プログラムドケアの開発-	日本看護科学学会学術集会議録集	第24回	617	2004
水流 聡子	「医療TQM(Total Quality Management)をめざす看護」を支える初期情報システムと必要とする看護マスター	医療情報学連合大会論文集(CD-R)	第24回	total 1p	2004
渡邊 千登世	慢性疼痛マネジメント(プログラムドケア)の設計開発	医療情報学連合大会論文集(CD-R)	第24回	total 1p	2004
宇都 由美子	全国標準看護マスタとDPC	医療情報学連合大会論文集(CD-R)	第24回	total 1p	2004
石垣 恭子、高見 美樹	ベッドサイドケアに情報・知識を活かすナースの育成(基礎教育)	医療情報学連合大会論文集(CD-R)	第24回	total 1p	2004
佐藤 エキ子	ベッドサイドケアに情報・知識を活かせるナースの育成(継続教育)	医療情報学連合大会論文集(CD-R)	第24回	total 1p	2004
水流聡子	看護が果たすべきアカウンタビリティと看護サービスの可視化:看護-看護教育分科	全国自治体病院学会抄録集	第43回	p110	2004
K.A.McCormick, S.Tsuru, U.Gerdin, P.Weber, A.Casey, E.Hovenga, J.Ho, K.Kerr, R.Carr	An Update on Standards Activities from Around the Globe	Medinfo 2004,	San Francisco, Sep 5-12	total 1p	2004
Satoko Tsuru, Mutsuko Nakanishi, Sawako Kawamura, Sigeki Horiuchi, Sachio Murashima, Mami Kayama, Kyoko Ishigaki, Miki Takami, Manami Inoue, Yukiko Nagaoka, Kazuko Hondo, Ryoko Hidaka, Atsuko Taguchi	NURSING PRACTICE TERMINOLOGY FRAME FOR ELECTRONIC HEALTH RECORD SYSTEM	International Nursing Research Conference	5th, Fukushima, Aug 29	total 1p	2004
水流聡子、中西睦子、川村佐和子、石垣恭子、宇都由美子、井上真奈美、清上五十鈴、才野原照子、内野聖子、日高陵好、本道和田子、村嶋幸代	基本看護実践標準用語が看護の質保証に貢献する可能性-電子経過表への実装結果に基づく評価-	日本看護管理学会年次大会講演抄録集	第8回	p230	2004
水流聡子	電子カルテに必要な看護用語の標準化-高度専門看護実践標準用語の設計-	日本看護管理学会年次大会講演抄録集	第8回	p252	2004
津久間秀彦、水流聡子、津久間秀彦、水流聡子、飯塚悦孝、高橋真冬、矢野真、水井廣次	患者参画型チーム医療の設計-“患者本位”と“安全管理”の視点の組み込み-	医療情報学	Vol.24 No.1	pp237-240	2004
水流聡子、会田均、高橋宏行、飯塚悦孝	患者状態に起因するアクシデント予測のためのケースアセスメントシートの開発-関連要素の抽出とシートの設計-	日本品質管理学会研究発表会研究発表要旨集	第74回	pp101-104	2004
神谷千鶴、岡美智代、山名栄子	腹膜透析患者のカテーテル管理のアルゴリズム化	日本行動医学学会学術総会	第11回		2004
水流聡子、石垣恭子、宇都由美子、高見美樹	臨床で使用されている看護行為名称の分析-看護行為の記録に必要なマスタファイル-	医療情報学	23(1)	65-76	2003
水流聡子	看護に求められるインフォームドコンセント	看護実践の科学	28(1)	10-15	2003
水流聡子	EBNIに不可欠な看護用語の標準化	EBNursing	3(4)	46-51	2003
水流聡子、中西睦子、川村佐和子、本道和田子	病院-在宅継続医療のための看護情報の活用	保健の科学	45(10)	729-735	2003
水流聡子	電子カルテを視野に入れた看護用語の標準化	看護管理	13(11)	883-886	2003
水流聡子	提供した看護の妥当性を示せる記録とは	看護展望	29(2)	12-16	2003
水流聡子	情報開示に耐えられる看護実践用語とその教育	医療情報学連合大会論文集	第23回	77-78	2003
水流 聡子、宇都由美子、石垣恭子、井上真奈美、高見美樹、柏木聖代、美代 賢吾	電子カルテで使用される看護マスターの標準化の課題-高度専門看護実践の名称とその基準-	医療情報学連合大会論文集	第23回	140-141	2003
水流聡子、井上真奈美、高見美樹、柏木聖代、石垣恭子、宇都由美子、美代賢吾	中間言語機能を有するICNPを用いた日本の看護実践の記述	医療情報学連合大会論文集	第23回	524-525	2003



坂田香代、溝上五十鈴、水流聡子、原田文子、杉村美由紀、才野原照子、津久間秀彦、田中武志、石川遼	標準化した看護ケア用語導入の効果－患者の全体像が見える記録へ－	医療情報学連合大会論文集	第23回	36-37	2003
北村和美、河村明江、沼田美幸、吉川文花、水流聡子、池本かつみ、田中武志、香西克之、河野香苗、才野原照子、溝上五十鈴、岩田則和、津久間秀彦	医療の電子化に対応する可搬型端末用ワゴンの開発－ベットサイドおよびスタッフステーションにおける機能性の追求－	医療情報学連合大会論文集	第23回	38-40	2003
河村明江、水流聡子、北村和美、吉川文花、新谷公伸、川野知子、田中武志、香西克之、吉野純、中山正俊、才野原照子、溝上五十鈴、津久間秀彦、石川	診療看護過程が見える電子経過表の開発－計画・実施・結果・評価のプロセスを全医療スタッフ・患者と共有－	医療情報学連合大会論文集	第23回	64-65	2003
Satoko Tsuru, Isuzu Mizogami, Masae Kawai, Teruko Sainohara, Yumiko Kurihara, Miyuki Sugimura, Nakao Konishi, Hidehiko Tsukuma, Kiyomi	Basic Configuration of Nursing Care Process Support System in Japan	8th International Congress in Nursing Informatics E-papers	8th, Rio de Janeiro, Brazil, June 20 -	681	2003
Akie Kawamura, Satoko Tsuru, Fumiko Harada, Humika Kikkawa, Kazumi Kitamura, Isuzu Mizogami, Teruko Sainohara	Construction of information system, aiming at the realization of substantial bedside care	International Congress in Nursing Informatics: E-papers	8th, Rio de Janeiro, Brazil, June 20 -	644	2003
Mutsuko Moriwaki, Mie Masaki, Satoko Tsuru	Analysis of nursing terms related to infection used in Japanese hospitals	8th International Congress in Nursing Informatics, Rio de Janeiro, Brazil, June 20-25, 2003: E-papers	8th, Rio de Janeiro, Brazil, June 20 -	679	2003
Satoko Tsuru, Mutsuko Nakaishi, Sawako Kawamura, Kazuko Hondo	Practical Use of Nursing Information for Continuous Medical Treatment between Hospital and Home	The Todai International Symposium 2002 -New Development on Nursing Informatics-	Tokyo, Feb 20-21	109-112	2003
Satoko Tsuru	Practical Use of Nursing Information for Continuous Medical Treatment between Hospital and Home	The Todai International Symposium 2002, New Development on Nursing Informatics	Tokyo, Feb 20-22	total 1p	2003
水流聡子	情報科学と看護システム	医学会総会 セッション:先端医療における看護職の役割	第26回	total 1p	2003

## 第18章 申請中の特許

本研究に関連して、以下の1件の特許出願を行った。

がん性疼痛マネジメントシステム，出願番号：特願2004-351074，  
平成16年12月3日申請

【出願者】 水流聡子、中西睦子

【発明者】 水流 聡子・中西 睦子・佐藤エキ子

渡邊千登世・内山真木子・中島佳子・菊池美賀子

## 資料集

資料1：看護行為マスター

資料2：看護観察マスター

資料3：領域別工程表と最終会議資料

- |   |                          |
|---|--------------------------|
| 1. 退院調整                                     | 5. クリティカルケア (CCU) (作業途中) |
| 2. 高度なコーディネーション (作業途中)                      | 6. クリティカルケア (NICU)       |
| 3. 高度先進医療に伴うケア (作業途中)                       | 7. 救命・救急看護               |
| 4. クリティカルケア (ICU) (作業途中)                    | 8. モニタリングケア              |
| 9. 疾患の自己管理教育プログラム (糖尿病管理教育プログラム)            |                          |
| 10. 疾患の自己管理教育プログラム (ストマ管理教育プログラム)           |                          |
| 11. 疾患の自己管理教育プログラム (透析管理教育プログラム)            |                          |
| 12. 疾患の自己管理教育プログラム (摂食・嚥下教育プログラム)           |                          |
| 13. 疾患の自己管理教育プログラム (褥そう予防・治療教育プログラム) (作業途中) |                          |
| 14. ストーマケア (作業途中)                           | 24. 栄養 (領域担当検討中)         |
| 15. 褥そう予防・治療                                | 25. 小児看護 (作業途中)          |
| 16. 緩和ケア                                    | 26. 介護家族ケア               |
| 17. 化学療法看護                                  | 27. 遠隔看護 (作業途中)          |
| 18. 放射線療法看護 (作業途中)                          | 28. デイサージェリー (作業途中)      |
| 19. 感染                                      | 29. システムティック安全看護 (作業途中)  |
| 20. 精神看護                                    | 30. 助産                   |
| 21. 周手術期看護 (術前・術中看護)                        | 31. 在宅ケア                 |
| 22. 周手術期看護 (術後急性期看護)                        | 32. 地域看護 (作業途中)          |
| 23. 病床リハビリ看護                                | 33. 災害看護 (作業途中)          |

## 資料1 看護行為マスター

＜看護実践用語標準マスタ－＞ 2005年6月版予定  
 (基本看護実践用語)

管理番号	第1階層(ルーブリック)名	第1階層の定義	第2階層(ルーブリック)名	第2階層の定義	第3階層(記載例)行為名称	第3階層の定義	第3階層の事例	第4階層(記載例)技術点	第4階層の定義・説明・解説	第4階層の事例
12000001	日常生活ケア	患者の人間としての基本的ニーズを満たし、生命・生活・尊厳を維持するためのケア	第2階層グループ名	清潔ケア	入浴	患者さんの状態に合わせて、頭や身体を洗い、さらに身体の清潔を保ち血行促進するために、湯船につかることを介助するケア		全介助		
12000002					沐浴	ペーパーバスを用いて乳原の皮膚の清潔を保ち、血液循環を促進するケア		部分介助		＜事例＞大腸癌手術後患した患者さんが、浴槽に入浴の際に可動域を超えないように自分自身で注意して移動ができるように、手を出さず声をかけながら、危険を回避するために入浴に付き添った。
12000003					手浴	洗滌循環の促進をほかり、皮膚の清潔を保つために、手を洗うケア		部分的観察		
12000004					足浴	洗滌循環の促進をほかり、皮膚の清潔を保つために、足を洗うケア		部分的観察		＜事例＞以前に入浴中に気分不良をおこした患者に対して、入浴前後に体調などについて観察確認するとともに、入浴している際に入浴中、声をかけ危険回避を行った。
12000005					シャワー浴	患者さんの体調や自立度に合わせてシャワーを使って体や頭を洗うのを介助する		全介助		
12000006					沐浴	ペーパーバスを用いて乳原の皮膚の清潔を保ち、血液循環を促進するケア		部分介助		
12000007					手浴	洗滌循環の促進をほかり、皮膚の清潔を保つために、手を洗うケア		部分的観察		
12000008					足浴	洗滌循環の促進をほかり、皮膚の清潔を保つために、足を洗うケア		部分的観察		
12000009					洗髪	頭部の清潔を保つために、洗髪を介助するケア。入浴ができない人や頭部に腫れもつ人に対して行うもので、患者さんの状態に合わせて、洗髪台、アリーバッド(ベッド上)、洗髪などをペット上から動くことのできない患者さんに対して、朝夕に顔を洗ったり、タオルで拭いたりするケア		全身		
12000010					洗面	入浴やシャワー浴が困難なときに、皮膚の清潔や循環を促すために、あたたかいタオルで身体を拭くケア		全身		
12000011					清拭	入浴やシャワー浴が困難な患者さんの顔部の清潔を保つために、お湯や石鹸を使って洗い流すケア		上半身		
12000012					清拭	顔部や口唇部の清潔を保つために、顔部をお湯に浸けることを介助するケア		下半身		
12000013					清拭	顔部や口唇部の清潔を保つために、顔部をお湯に浸けることを介助するケア		背部		
12000014					清拭	顔部や口唇部の清潔を保つために、顔部をお湯に浸けることを介助するケア				
12000015					清拭	顔部や口唇部の清潔を保つために、顔部をお湯に浸けることを介助するケア				
12000016					清拭	顔部や口唇部の清潔を保つために、顔部をお湯に浸けることを介助するケア				
12000017					清拭	顔部や口唇部の清潔を保つために、顔部をお湯に浸けることを介助するケア				
12000018					清拭	顔部や口唇部の清潔を保つために、顔部をお湯に浸けることを介助するケア				
12000019					清拭	顔部や口唇部の清潔を保つために、顔部をお湯に浸けることを介助するケア				
12000020					清拭	顔部や口唇部の清潔を保つために、顔部をお湯に浸けることを介助するケア				
12000021					清拭	顔部や口唇部の清潔を保つために、顔部をお湯に浸けることを介助するケア				

管理番号	第1階層グループ名	第1階層の定義	第2階層グループ名	第2階層の定義	第3階層(記載例)行為名称	第3階層の定義	第3階層の事例	第4階層(記載例)行為名称	第4階層の定義・説明・状況	第4階層の事例
12000022					細菌洗浄	菌を自身で洗浄できない患者さんの口腔内および歯を清潔にするケア				
12000023					含漱	口腔や咽下障害があるなど、うがいや口腔内の清潔を保つためにうがいや介助するケア				
12000024					唾液吸引(吸引機使用)	ムセ込みがあり、嚥下機能が低下している患者さんへ、口腔内を清潔に保つために、吸引機を使用して、唾液(こえん)を予防しながら唾液を介				
12000025					舌苔除去	口腔内の清潔を保つために、舌(舌苔)を取り除く				
12000026					粘膜炎ケア	口、鼻、耳など、それぞれの粘膜の清潔を保ち、嚥下機能を最大限発揮するために、食物や老廃物を取り除き、皮膚を清潔にするケア				
12000027					皮膚ケア	皮膚の清潔を保ち、嚥下機能を最大限発揮するために、食物や老廃物を取り除き、皮膚を清潔にするケア				
12000028										
12000029										
12000030										
12000031										
12000032					整容・更衣ケア	社会生活を営み、自尊心を維持するために必要な身だしなみを整えるケア				
12000033										
12000034										
12000035										
12000036										
12000037										
12000038										
12000039										
12000040										
12000041										
12000042										
12000043										
12000044										
12000045										
12000046										
12000047										
12000048										
12000049										
12000050										
12000051										
12000052					栄養・食事ケア	適切な食習慣と栄養を維持するため、対象に選んだ食事摂取の方法を選択し、介助するケア				
12000053										
12000054										

管理番号	第1階層グループ名	第1階層の定義	第2階層グループ名	第2階層の定義	第3階層(記載例)行為名称	第3階層の定義	第3階層の事例	第4階層(記載例)修飾語	第4階層の定義・説明・解説	第4階層の事例
12000055					第3階層(記載例)行為名称 誤嚥防止	食物や水分を飲み込む時に、むせやすい患者さん、誤嚥(ごえん)しないように行う予防的ケア				
12000056					食事介助(ハイリスク)	食事中に誤嚥(ごえん)などの危険が高い患者さんに、事後食事を介助するケア		全介助		
12000057					食事介助(ロウリスク)	ハランスよく栄養を摂るために、食べ方や食の好みに働きかけがある患者さんへ、食事を介助するケア		部分介助 観察的観察 部分的観察 全介助		
12000058					授乳ケア(ハイリスク)	消化器や呼吸器に問題を抱える等何らかの理由で経口的で十分な栄養がとることが難しい児に対して、授乳を介助するケア		部分介助 観察的観察 部分的観察		
12000059					授乳ケア(ロウリスク)	消化器や呼吸器等に障害がない児に、授乳を介助するケア		全介助		
12000060					ポータブルトイレ排泄介助	ポータブルトイレ排泄介助		全介助		
12000061					排便器排泄介助	排便器排泄介助		部分介助 全介助		
12000062					トイレでの排泄介助	トイレでの排泄介助		部分介助 全介助		
12000063					腸管運動促進	腸管運動促進		腹部電法		
12000064					薬理的排便調整(医師の指示による)	薬理的排便調整(医師の指示による)		腹部マッサージ 下剤		
12000065					非薬理的排便調整	非薬理的排便調整		便薬 浣腸 高圧灌腸 肛門刺激		
12000066					排便	排便		排便		
12000067					尿意誘発	尿意誘発				
12000068					導尿	導尿				
12000069										
12000070										
12000071										
12000072										
12000073										
12000074										
12000075										
12000076										
12000077										
12000078										
12000079										
12000080										
12000081										
12000082										

管理番号	第1階層グループ名	第1階層の定義	第2階層グループ名	第2階層の定義	第3階層(記載例)行為名称	第3階層の定義	第3階層の事例	第4階層(記載例)行為名称	第4階層の定義・説明・解説	第4階層の事例
12000083					自己導尿の支援	膀胱内に尿がたまってきたら、自分で尿を排出できる患者さん自身ができるようにするケア				
12000084					尿音留置	膀胱内に尿がたまってきたら、自分で尿を排出できない患者さんや尿量を管理する必要がある患者さんに、尿管を留置するケア				尿管を留置して、1時間ごとの尿量を観察した。
12000085					オムツ交換	オムツを使用している患者さんのオムツを必要時交換するケア				
12000086					パッド交換	尿漏れ、尿内、尿などの清潔を保つために、排泄物や分泌物が付着・浸透しているパッドを交換するケア				
12000087					漏尿の指導と管理	漏尿の必要時と管理方法を説明し、患者さんの理解度に合わせて漏尿の管理を介助するケア				
12000088					トイレ誘導	患者さんの排尿がスムーズにできるように、自立度と尿意や尿意に合わせて、トイレに誘導するケア	事例1> 起床状態の患者が自発的にトイレに行くことなく臥床しており、一定時間ごとに失禁してしまったり、一定時間ごとにトイレに行くように声をかけし、トイレへ同行する。 事例2> Aさんは子宮頸癌手術を受けた。手術後は留置カテーテルが挿入されていた。カテーテルの抜去後の期間たっても尿意を感じなかったが、膀胱の膨張はみられた。それでトイレまで同行し排尿を促した。その後も尿意を感じて自然な排尿ができた。			
12000089					移乗	ベッドから車椅子などに患者が移動するのを介助するケア				
12000090					移動介助	車いすやストレッチャーなどで目的の場所へ移動するのを患者さんの自立度に合わせた介助するケア				
12000091					移送	車いすやストレッチャーなどで目的の場所へ運んで行く				
12000092										
12000093										
12000094										
12000095										
12000096										
12000097										
12000098										
12000099										
12000100										
12000101										
12000102										
12000103										
12000104					歩行介助	患者さんに必要な介助状況を把握しながら、歩行を介助するケア				
12000105										
12000106										
12000107										
12000108										
12000109										
12000110										
12000111										



管理番号	第1階層グループ名	第1階層の定義	第2階層グループ名	第2階層の定義	第3階層(記載例)行為名称	第3階層の定義	第3階層の事例	第4階層(記載例)稼働法	第4階層の定義・説明・解説	第4階層の事例
12000112					歩行介助(歩行器)	患者さんに必要な介助状況 を把握しながら、歩行器を 用いて歩行を介助するケア		全介助		
12000113								部分介助 継続的観察		
12000114								継続的観察		
12000115										
12000116										
12000117										
12000118										
12000119										
12000120										
12000121										
12000122										
12000123										
12000124										
12000125										
12000126										
12000127										
12000128										
12000129										
12000130										
12000131										
12000132										
12000133										
12000134										
12000135										
12000136										
12000137										
12000138										
12000139										
12000140										
12000141										
12000142										

管理番号	第1階層グループ名	第1階層の定義	第2階層グループ名	第2階層の定義	第3階層(記載例)行為名称	第3階層の定義	第3階層の事例	第4階層(記載例)行為名称	第4階層の定義・説明・解説	第4階層の事例
12000143	第2階層グループ名	患者が自力ではコントロールすることができない不快感(体温調節、痛みなど)を軽減するケア。ただし、これには継続的な痛み症状のコントロールは含まれない。	第3階層(記載例)行為名称	疼痛緩和	痛みを感じるときに、その原因に応じた痛みを軽減・緩和する方法を提供するケア			冷電法		
12000144				疼痛緩和	皮膚の乾燥や発熱などによるかゆみを緩和するために行うケア			湿電法		
12000145				疼痛緩和	体温の過度な上昇、またそれに伴う不快感を軽減するために行うケア			湿電法 ファンファンジ 扇風機 体位の調整 薬剤		
12000146				疼痛緩和	体温の過度な低下、またそれに伴う不快感を軽減するために行うケア			冷電法		
12000147				疼痛緩和	速閉した部位(関節・骨など)を毛布を用いてもとにもとし、痛みや不快感を緩和するために行うケア			薬剤 冷電法		
12000148				疼痛緩和	体温の過度な低下、またそれに伴う不快感を軽減するために行うケア			薬剤 湿電法		
12000149				疼痛緩和	速閉した部位(関節・骨など)を毛布を用いてもとにもとし、痛みや不快感を緩和するために行うケア			湿電法		
12000150				疼痛緩和	小児の言葉予防・緩和ケア			湿電法		
12000151				疼痛緩和	小児の言葉予防・緩和ケア			湿電法		
12000152				疼痛緩和	小児の言葉予防・緩和ケア			湿電法		
12000153				疼痛緩和	小児の言葉予防・緩和ケア			湿電法		
12000154				疼痛緩和	小児の言葉予防・緩和ケア			湿電法		
12000155				疼痛緩和	小児の言葉予防・緩和ケア			湿電法		
12000156				疼痛緩和	小児の言葉予防・緩和ケア			湿電法		
12000157				疼痛緩和	小児の言葉予防・緩和ケア			湿電法		
12000158				疼痛緩和	小児の言葉予防・緩和ケア			湿電法		
12000159				疼痛緩和	小児の言葉予防・緩和ケア			湿電法		
12000160				疼痛緩和	その他の疼痛の予防・軽減	痛みや体温以外の不快感や自力調整が困難な不快感を予防したり、軽減するためのケア		体位調整		
12000161				疼痛緩和	その他の疼痛の予防・軽減	呼吸をしやすしたり、痰を出しやすしたりするために、気道に適切な湿度を与えるケア		その他		
12000162				疼痛緩和	その他の疼痛の予防・軽減	呼吸をしやすしたり、痰を出しやすしたりするために、気道に適切な湿度を与えるケア		超音波ホライザー		
12000163				疼痛緩和	その他の疼痛の予防・軽減	呼吸をしやすしたり、痰を出しやすしたりするために、気道に適切な湿度を与えるケア		超音波ホライザー		
12000164				疼痛緩和	その他の疼痛の予防・軽減	呼吸をしやすしたり、痰を出しやすしたりするために、気道に適切な湿度を与えるケア		超音波ホライザー		
12000165				疼痛緩和	その他の疼痛の予防・軽減	呼吸をしやすしたり、痰を出しやすしたりするために、気道に適切な湿度を与えるケア		超音波ホライザー		
12000166				疼痛緩和	その他の疼痛の予防・軽減	呼吸をしやすしたり、痰を出しやすしたりするために、気道に適切な湿度を与えるケア		超音波ホライザー		
12000167				疼痛緩和	その他の疼痛の予防・軽減	呼吸をしやすしたり、痰を出しやすしたりするために、気道に適切な湿度を与えるケア		超音波ホライザー		
12000168				疼痛緩和	その他の疼痛の予防・軽減	呼吸をしやすしたり、痰を出しやすしたりするために、気道に適切な湿度を与えるケア		超音波ホライザー		
12000169				疼痛緩和	その他の疼痛の予防・軽減	呼吸をしやすしたり、痰を出しやすしたりするために、気道に適切な湿度を与えるケア		超音波ホライザー		
12000170				疼痛緩和	その他の疼痛の予防・軽減	呼吸をしやすしたり、痰を出しやすしたりするために、気道に適切な湿度を与えるケア		超音波ホライザー		
12000171				疼痛緩和	その他の疼痛の予防・軽減	呼吸をしやすしたり、痰を出しやすしたりするために、気道に適切な湿度を与えるケア		超音波ホライザー		

管理番号	第1階層グループ名	第1階層の定義	第2階層グループ名	第2階層の定義	第3階層(記載例)行為名称	第3階層の定義	第3階層の事例	第4階層(記載例)技術語	第4階層の定義・説明・解説	第4階層の事例
12000172					経鼻吸引	鼻から気道内分泌物を体外に出すために、吸引機を用いて行うケア				
12000173					経口吸引	口から気道内分泌物を体外に出すために、吸引機を用いて行うケア				
12000174					気管内吸引	気管内から気道内分泌物を体外に出すために、吸引機を用いて行うケア				
12000175					気管カニューレ管理	気管カニューレが効果的に作用するように行うケア				
12000176					肺理学療法	患者さんが自力で安楽な呼吸が保てるように胸部の可動域を広げる手助けをしたり、呼吸方法を指導するケア				
12000177					喘息時のケア	喘息症状があるときに、早急なケアを行うケア				
12000178					酸素吸入	酸素欠乏状態を予防したり、酸素吸入を行うケア		鼻カニューレ		
12000179								マスク		
12000180								酸素サント		
12000181					過換気時のケア	過換気症状があるときに、呼吸を整えるために行うケア				
12000182					血栓の予防	血栓を予防するために、適切なケアを行うケア		上肢・下肢の薬上		
12000183					循環ケア	血液、体液の循環を円滑にし、循環系に引きやすい障害を予防、または速やかに軽減するケア		弾性ストッキングの使用 冷療法 温療法 マッサージ		
12000184								浮腫		
12000185								上肢・下肢の薬上		
12000186								弾性ストッキングの使用 冷療法 温療法 マッサージ		
12000187										
12000188										
12000189										
12000190										
12000191										
12000192										
12000193					病状・室内環境 ケア	清潔かつ快適な病室・居室・居室の生活環境を提供するケア				
12000194										
12000195										
12000196										
12000197										
12000198					意思疎通ケア	コミュニケーションの能力が著しく低下した患者に意思を伝達する適切な方法を用いて支援し、意思疎通をはかるケア				
12000199										
12000200										
12000201										

管理番号	第1階層グループ名	第1階層の定義	第2階層グループ名	第2階層の定義	第3階層(記載例)行為名称	第3階層の定義	第3階層の事例	第4階層(記載例)修飾語	第4階層の定義・説明・解説	第4階層の事例
12000202					意思疎通の援助(聴覚障害)	聴覚障害がある患者さんに 対して、意思伝達ができる ように適切な方法を用いて		重複		
12000203					意思疎通の援助(失声障害)	発声障害がある患者さんに 対して、意思伝達ができる ように適切な方法を用いて		程度 重複		
12000204					意思疎通の援助(視覚障害)	視覚障害がある患者さんに 対して、意思伝達ができる ように適切な方法を用いて		程度 重複		
12000205					日常生活習慣の援助	子どもの日常生活習慣の 獲得状況に合わせて、環境 (人、物)を変えたり、子ども の意欲を継続増進したり、 遅延感を持たせながら生活習 慣の獲得を促すケア		程度 重複	幼児期の児の家事に付き添 い、児が自立して進べること ができるよう見守るとともに適 宜介助する。	
12000206					発声・発声ケア	練習を必要とする患 者の成長を適切に 促すケア		程度 重複	排泄が自立していない児に対 して、尿の意欲を尊重しながら 排泄を促しうまうまできた時には 褒め、排泄の自立を促す措 施、起床時間を設定し尿 が自主的に排泄、起床できる よう環境を整え、声かけをする 児が自主的に着替えの準備 を行い、入浴、着脱に積極的 に臨み、洗える(拭ける)所は 自分で着よう(拭く)よう援助す る。更衣が自立していない児にた いして、着替えの準備、更衣 を自主的にできるように見守り 、他の児との交流の中で、おも ちゃの貸し借りや、杖路の履 き、履きの履き替えなどを通し、 マナー・社会性を養い行動。	
12000207										
12000208										
12000209										
12000210										
12000211										
12000212					養育ケア	家庭では自然に得られる類 子の心理・情緒的な相互作用 を代償するように行うケ ア	事例>養育者として日常的に行っ ている子どもを抱く、あやす、トントン するなどの継続的スキンシップや、子 どもと話をし、遊ぶ、絵本を読むな ど			
12000213					子ども同士の関係調整	小児患者同士の社会性や コミュニケーション能力の発 達レベルの差を調整し、患 者間の交流関係または友 人関係を促進するように行 う				
12000214					遊びケア	小児患者に、遊びを通し て、社会性や身体的能力や 知的能力を促したり、入院 しているさびしさに対応でき るように行うケア				
12000215					運動機能の発達ケア	運動機能の障害があるまた は運動能力を十分に活用 できない状況の子どもに、 環境(人、物)を調整し、運 動能力の発達しレベルを維 持・促進するように行うケア				
12000216					学習ケア	小児患者に、学習を促し (入院していない)との差に 無ることなく、また、入院し ている小児患者同士で社会 性や知的能力を維持・促進 患者さんの悩みや思いを聞 くこと、不安を和らげ、患 者の力量を活用して行うケ ア				
12000217										
12000218										
12000219					心理的ケア	患者の心理的障 害を除く、あるいは患 者の心理的問題に 対応するためのケア				
12000220						患者さんへの関心を示し、 患者さんが抱きたいことを聞く姿 勢を示し、安心感を与える ように行うケア				